

アカデミアの ほっと一息



～教授室だより～

■横須賀から幕張へ

「まさか」の人事異動で、1年前に横須賀市から派遣で市町村アカデミーにお世話になることになりました。

57歳で初めての一人暮らしと単身赴任、横須賀以外に住んだことが無いので、幕張での暮らしには不安一杯でしたが、最近では落花生も上手に茹でられるようになり、少し慣れてきたかな？と感じています。

■ラグビーに出会い

実家近くに運動公園があり、小1の時に市ラグビー協会が行うラグビースクールに入りました。中学で身長が伸びず、高校卒業後はラグビーを続けるつもりはありませんでしたが、結局、大学まで体育会ラグビー部。強豪でも名門でもないラグビー部ですが、今でも気の置けない同期との付き合いは続いています。

入庁後、市役所の先輩達が同スクールでボランティア指導員をしていたため、断る選択肢はなく、気が付けば26年経っていました。

主に中学生の監督をしていましたが、子ども達の頑張りや、神奈川県チャンピオンになり、東日本大会にも3回出場させてもらいました。OB、OGが強豪の高校、大学、社会人で活躍してくれていることは、嬉しい限りです。

■市役所の管理職になり

ラグビーの指導者経験が、仕事の上では非常に役に立っています。

初めの頃は大きな声で怒鳴ってばかり。怒ることでチームが強くなると思っていました。

どうすれば、チームが強くなれるかを考えるにつれ、変化していきました。結局、怒られるより褒められた方が、中学生は強くなっていきました。

仕事でも管理職になり、同じように部下と接しています。甘やかすつもりはありませんが、怒鳴られ、怒られて「頑張ろう」と思う人は、ほばいないでしょう。嫌な職場であれば、別の役所や仕事はいくらでもある時代ですから。

「あの時仕事は辛かったけど、あの上司だったから頑張れたよな」と思い返すことがあります。その上司と同じようにはできないかもしれませんが、自分の部署が一つのチームのようになって、やりがいを感じて頑張れる職場にしたいな、と常に考えています。

■現在の趣味

現在はラグビーを離れ、自分磨きのためゴルフに夢中です。始めてまだ4年ですが、早く70台に突入できるよう日々、我流で自分をコーチングしています。

また、車が好きなので中古車で面白そうな車を探し、様々な車乗り継いできました。父親も車好きだったので、遺伝かもしれません。

特に、古い車に惹かれてしまうのです。子どもが生まれた時に1974年式のワーゲンバスを購入しましたが、エアコンが無いため夏は灼熱の車内、家族から不評で数年で泣く泣く手放すために。エンジン音と振動が無い最近の車は、どうも苦手です。

■横須賀でおすすめの場所（私的な理由も含め）

横須賀美術館

東京湾が目の前。天気良ければ房総半島はすぐ近く。日本初の洋式灯台となった観音崎灯台まで歩いて行けます。浦賀水道を行き交うカラフルで様々な船を見ているだけでも飽きません。

建築界で最も栄誉あるプリツカー賞を受賞した山本理顕さん設計の全面ガラス張りの建物は圧巻です。

個人的な話で恐縮ですが、初代館長は私の伯父（父の兄）で島田章三（故人）という洋画家。文化功労者、愛知県立芸術大学学長などを務め、大学の教え子には、世界的に活躍している画家の奈良美智さんがいます。

伯父の絵も常時数点展示されているので、ぜひご覧ください。

もう一か所は、平和中央公園

京浜急行線の横須賀中央駅から徒歩10分ほど坂を上り、小高い丘の上に位置します。

横須賀は坂と階段とトンネルのまちです。頑張って登りましょう。

ここも高台からの絶景で、東京湾一望。晴れた日には横浜・東京のビル群や東京スカイツリー、房総半島が一望。

今年の元日に海浜幕張の高層ビル群を探しましたが、残念ながら発見できず。

この公園の中に歌碑があり「横須賀の丘に吹く風いちにんのいのちの重み世界に告げよ」と刻まれています。

またまた個人的な話で恐縮ですが、この短歌の作者は、同じく伯父（父の兄）で島田修二（故人）という宮中歌会始選者などを務めた歌人です。

市役所の若手職員だった頃、先の洋画家の伯父に「横須賀らしい海や船の絵をもっと描いてよ」とお願いしたことがあります。

昭和8年生まれ伯父は、「横須賀の色は、子どもの頃の目に焼き付いている軍艦の『灰色』だから、良い色がイメージできないんだ」と胸の内を明かしてくれました。

タレントのタモリさんは、現在を「新しい戦前」と表現しました。

我が子や孫やそのまた次の世代の人々が、自由に明るくカラフルに生きていけることができるのだろうか？と感じる日々です。

平和中央公園で、「現在」、「過去」、「未来」を考えるのはいかがでしょうか。



平和中央公園からの東京湾と猿島。右奥は富津・君津のコンビナート（令和8年1月1日筆者撮影）

調査研究部
研究主幹
島田 圭